

新型『パルフェ』の発売について

- 外装メニューの拡充と大開口が醸し出す格調高く多彩な外観
- 主要外装部材の耐久性強化によりライフサイクルコストをさらに低減
- コストパフォーマンスが高い新型 VtoH システムの導入によりエネルギー自給自足がより身近に

2018年7月9日
積水化学工業株式会社

積水化学工業株式会社 住宅カンパニー（プレジデント：関口俊一）は、格調高い外観デザインの実現とライフサイクルコスト（以下、LCC）をより一層低減した、鉄骨系ユニット住宅の新型『パルフェ』を、2018年7月21日（土）より全国（北海道、沖縄、および積雪地域を除く）で発売します。『パルフェ』は1983年の発売以来、累計23万棟を超える建築実績を誇るセキスイハイムの基幹商品です。

当社は、2017年～2019年度の中期経営計画「SHIFT2019-Fusion-」の中で、住宅事業における戸建てシェアアップの施策の一つとして「価格帯別商品ラインナップの強化」を進めることとしています。今回の新型『パルフェ』は、主に中高額層を中心とした商品として位置づけ、建て替え需要への対応強化を図ることを狙いとしています。

新型『パルフェ』の特長

1. 外装メニューの拡充と大開口が醸し出す格調高く多彩な外観

中高額層のお客様の外観へのこだわりに応えるため、深い陰影を生み出す「インナーキャッチバルコニー」、「オーバーハングバルコニー900」を開発。ご好評をいただいているオリジナルデザイン外壁「レジデンススタイル」との組み合わせにより、格調高い外観を実現しました。また、片流れ屋根（以下、コンファティック）のバリエーション拡充により、多彩な外観と小屋裏やロフトなどプラスαの室内空間を創出しやすくなりました。

さらに「ボックスラーメン構造」の特性を活かし、構造体に負荷をかけることなく最大幅5m40cm*1、最大高さ2m40cm*2の大開口を実現し、屋内の解放感を向上。玄関ドアの高さも従来から約20cm高くし、邸宅感のある豊かな外観デザインを実現しました。

これらの大開口を採用しながらも、高断熱仕様の玄関ドアを標準化することで、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）断熱基準に対応し、高い省エネ性と快適性を実現しています。

2. 主要外装部材の耐久性強化により LCC をさらに低減

お客様に永く安心してお住まいいただくために、コンファティックの屋根、台形ユニットの屋根、ペントハウス（塔屋）の屋根、バルコニーの床下地をステンレスへ仕様統一。主要な外装部材の耐久性を強化し、LCCのより一層の低減を実現しました。

3. コストパフォーマンスが高い新型 VtoH システムの導入によりエネルギー自給自足がより身近に

EV（電気自動車）の更なる本格普及に備え、従来のVtoH（Vehicle to home）システムよりもコストパフォーマンスの高い単独設置型のバリエーションを新たに追加。環境に優しく災害に強いエネルギー自給自足型住宅がより身近になりました。

■ 新型『パルフェ』の開発背景

当社は、2017年～2019年度の中期経営計画「SHIFT2019-Fusion-」の中で、住宅事業における戸建てシェアアップの施策の一つとして「価格帯別商品ラインナップの強化」を進めることとしています。

2017年4月にはボリュームゾーン向けに木質系ユニット住宅の『グランツーユーV』を発売、同年7月には鉄骨系ユニット住宅の『スマートパワーステーションGR』、2018年4月には新型『スマートパワーステーションFR』を発売。低～中価格帯の商品を強化してきました。今回、セキスイハイムの基幹商品である新型『パルフェ』の発売により中～高価格帯商品を強化することで、建て替え受注の増加も狙います。

■ 新型『パルフェ』の特長

1. 外装メニューの拡充と大開口が醸し出す格調高く多彩な外観

中高額層のお客様の意匠性に対するこだわりにお応えするため、以下3点の外観強化を行いました。

① 新型バルコニー

2種類の新型バルコニーを開発。屋根と外壁で囲われた「インナーキャンチバルコニー」、従来のバルコニーより最大90cmの張り出しが可能となった「オーバーハングバルコニー900」により、陰影感のある格調高い外観をつくることができます。これらのバルコニーの採用により生み出された軒下空間は内と外をつなぐ空間として、ゆとりとくつろぎを創出します。



インナーキャンチバルコニー



オーバーハングバルコニー900

② コンファティックのリニューアル

フラット屋根の一部に片流れ屋根を追加するコンファティックのバリエーションを拡充。小屋裏収納やロフトなどプラスαの室内空間が提案しやすくなりました。また、コンファティックは外観上のアクセントにもなり、より多彩な外観をつくることができます。



③ 大開口

筋交いが必要のない「ボックスラーメン構造」の特性を活かし、構造体に負荷をかけることなく最大幅5m40cm^{*1}、最大高さ2m40cm^{*2}の大開口を実現しました。これにより、解放感が高まり、従来に比べ約20cm高くなった玄関ドアとともに、邸宅感のある豊かな外観をつくり出すことができます。

なお、これらの大開口を実現しながらも、高断熱仕様の玄関ドアを標準化することで、ZEH断熱基準に対応し、高い省エネ性と快適性を実現しています。

2. 主要外装部材の耐久性強化により LCC をさらに低減

住宅にかかるコストは建築費だけではありません。光熱費やメンテナンス費など、「住んでから」かかる費用も含めた LCC を考えた家づくりが大切です。当社ではこれまで、高耐久タイル外壁、高耐久ステンレス屋根を導入し、LCC の低減に努めてきました。

今回、コンファティックの屋根、台形ユニットの屋根、ペントハウス（塔屋）の屋根、バルコニーの床下地をステンレスへ仕様統一。主要な外装部材の耐久性を強化し、LCC のより一層の低減を実現しました。

3. コストパフォーマンスが高い新型 VtoH システムの導入によりエネルギー自給自足がより身近に

EV の更なる本格普及に備え、今回、普及型 VtoH システムに VtoH スタンド^{※3} 単独設置のバリエーションを追加し、コストパフォーマンスを高めました。このことにより、一層多くのお客様にエネルギー自給自足型住宅をお選びいただけるようになりました。

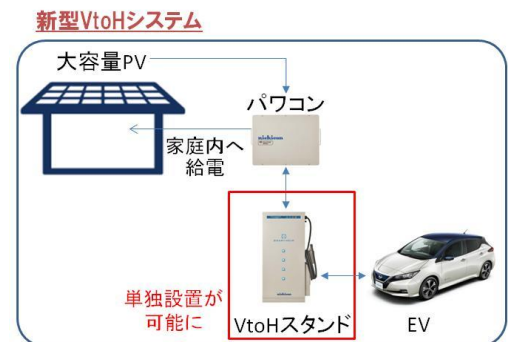
当社「PV 搭載住宅の VtoH 利用の実態把握」調査（2018 年 6 月 13 日発表）から、自家用車として EV を利用している方は、走行による電力利用量が EV の蓄電能力に対し 2 割程度と少なく、EV の蓄電能力のさらなる活用が見込めるということがわかりました。

VtoH システムを採用し、住宅と EV 間で電力融通を行うことで、走行だけでは使いきれなかった電力を家庭内で利用することが可能になります。そのため、EV に搭載されている蓄電容量を最大限に活用することができ、EV の価値は飛躍的に向上します。

今回、単独設置型のバリエーション追加により、VtoH システムが従来以上に導入しやすくなり、より多くのお客様に環境に優しく災害に強い家をお選びいただけるようになりました。

当社 VtoH システムラインナップ

	停電時	設置バリエーション	
		VtoH スタンド	VtoH スタンド +蓄電池
高機能型	家中の電力が 使用可能 ^{※4}	導入済み	導入済み
普及型	一部の電力が 使用可能 ^{※5}	新規導入	導入済み



販売目標

販売目標：年間 2,000 棟を計画（初年度 1,800 棟）

※1：開口幅 90cm から 3m60cm の窓を 2 枚以上組み合わせることで最大幅 5m40cm になります。

※2：天井高 2m55cm を選択した場合に限ります。

※3：EV への充電、及び EV にためた電力の家庭内への放電を行う設備

※4：EV 在宅時、最大合計約 6,000W、200V の電源が利用可能

※5：EV 在宅時、事前に計画したコンセントで最大約 2,500W、100V の電源が利用可能



新型『パルフェ』の代表外観



**新型『パルフェ』の外観
(コンファティック採用)**



**新型『パルフェ』の外観
(インナーキャンチバルコニー採用)**